

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	有限会社ベストケアサービス グループホーム高丘 ユニットB	評価実施年月日	平成22年 2月 8日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年 2月 19日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>(基本理念)1、人間としての尊厳を尊重する。 2、強制をせず自由を重んじる。 3、画一的ではなく個々に合わせた対応をする。 4、自立を促すための介護を行う。 5、生活を楽しんでもらう。 6、地域に密着した生活を支える。 (方針)なごみ</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>職員の目の届く所に掲示し常に確認している。(各階事務所、トイレ内)</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>家族会や運営推進会議を通じて理念を理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>隣近所の方達には日常の挨拶はもちろん、雪かきの協力など自然なお付き合いを心掛けている。また、地域の回覧板でウエス募集かけたところ、近所の方が持参し立ち寄って下さる。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町会の賛助会員に入っており、町会館を借りての行事を行ったり、町内会のお祭りの手伝いも参加している。子供みこしもグループホーム前にてみせてくれている。他地域活動にも声をかけてもらい、できるだけの参加を心掛けている。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>町内会と防災協定を結んだことでより一層の連携と運営推進会議を利用し協力し合えることの検討を常に行っている。(冬季:近隣の雪かき)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で自己評価を行い、現在の取り組みを見直し、次に活かせる話し合いを行っている。		
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では外部評価の結果はもちろん、利用者の現状や行事、事故等の報告をし意見をもらっている。その後職員会議等での話し合いをもつようにしている。		
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	保健所等とは運営推進会議を含め、必要があった際には連絡を行っている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	それぞれ参加する研修等で話しは聞き、会議で報告程度の話し合いは行っている。現在、対象者はなく、必要に応じ施設内研修の検討していく。	○	
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員全体があってはならないことと認識している。		
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用前には家族や本人の話を聞く時間を持ち、理解や納得をしていただけるよう努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 ○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>特に機会は設けていないが話をしやすい雰囲気と、関わりの中から気付いた事を話合えるよう努めている。</p>		
<p>14 ○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>定期的なホーム便りと、状態変化や受診後の電話報告などで家族と個々に連絡をとっている。</p>		
<p>15 ○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日頃の電話連絡や面会時に気軽に話せる雰囲気を作っており気になる事等を聞き出すようにしている。運営推進会議や家族参加の多い行事の後など、家族と職員の意見交換の機会を作っている。</p>		
<p>16 ○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>日々の中で気付いた事を職員と確認しており、職員会議等を通じても確認している。</p>		
<p>17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>人の配置にはゆとりをもたせており、連絡・調整にて柔軟に対応できるようにしている。</p>		
<p>18 ○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>日頃から相談できるような雰囲気を作っており、管理者や運営者に随時、相談できるようにしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>運営者と管理者で研修案内ごとに研修内容を確認し、勤務年数等を考慮してできるだけ参加している。職員会議の中で研修報告とし内部での勉強の機会をもうけている。</p>		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>グループホーム協議会に加盟しており、勉強会等の呼びかけも多く他施設との交流も目的のひとつとし積極的に参加している。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>日頃から運営者はグループホームに来所し職員と気軽に話しをする機会をつくっている。他、新年会や研修旅行など親睦を深めるための機会をつくっている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>運営者は職員の勤務年数や資格ばかりでなく仕事への取り組みや勤務態度の把握に努め評価している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>利用相談時には現状や不安、希望の把握に努め、施設見学や訪問を通して本人に納得して頂けるよう努力している。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>利用相談時には現状や不安、希望の把握に努め、施設見学や訪問を通して家族に納得して頂けるよう努力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けた際には利用者の状況を確認しながら自施設のみを勧めず利用できる可能性があるサービスの説明を行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	利用者・家族との連携をうまくとり、希望に合わせて入所開始日を決めている。利用者の状況や雰囲気を考慮し居室の変更も検討している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は利用者と一緒に生活しているという意識をもち、人生の先輩としての関わりと信頼関係を築けるよう努めている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族に対して、家族会や行事等に積極的な参加を促したり、面会時には職員とともに利用者との共有の時間を過ごし協力し合える関係作りに努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	入居後も面会のお願いや外出・外泊を勧めてみるなど家族との時間を大切に、状態報告にも努め、よりよい関係を築けるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会に関して特に規制は無いことを説明しており、馴染みの人や場所の把握と関係維持に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員が利用者同士の関係を把握しているため、利用者同士の関係性があまり良くない時、表情を見て疲れが出た時には無理をせず、職員が間に入ったり、落ちついて過ごせる場所の提供や調整をしている。		
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退所後、アルバムを作り家族に送ったり、入院されている方の面会など継続的な関わりを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	担当職員を中心に全職員での観察、話し合いを持って把握に努め、カンファレンスやミーティング等で本人の意見を尊重しながら話し合いを行い確認している。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメント表の活用で、家族の協力も得ながら、把握に努め、それぞれ把握していることをミーティング等で話し合いながら確認している。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日の申し送り、ケース記録にて、現状を把握し、状況の変化や定期的にあセスメント表を活用し、職員それぞれが把握していることをミーティング等で話し合いながら現状を確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族に聞き取りを行い、情報を集めミーティング等で確認し、それぞれの意見等を反映させた介護計画が作成できるよう努力している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的な評価と入退院等で変化があった場合、都度、介護支援専門員と職員が相談しながら、家族に連絡し、適切な介護計画を作成できる用努力している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに沿って分かりやすく記入するなど工夫し、申し送りノートの活用で、情報を共有し、ケアに反映させている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院受診、入浴時間、日帰り温泉など本人の要望に応じて、フリー職員を活用し、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	施設行事を始め、避難訓練にも地域の方の参加を呼びかけて民生委員が参加し、行事を中心に学生ボランティアにも働きかけている。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現在、対象となる利用者はいないが、運営推進会議等で話し合っている。+		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在、対象となる利用者はいないが、運営推進会議等で話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医療機関等の説明を行いながらも馴染みのかかりつけ医等を確認し、本人、家族の希望に沿って、受診の支援を行っている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関に認知症の専門科があり、都度、受診を行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションと契約しており、毎週1回訪問してもらい、利用者の相談をしながら、健康管理をしている。また、訪問日以外でも電話での相談をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した際には職員がお見舞いや食事介助に行き、都度看護師に状態の確認をし、担当医の説明を家族と共に聞き、職員間で情報を共有し、退院に備えて連携している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	終末期ケアについては担当医と家族と話し合いを繰り返し、本人、家族の意向を優先しできる限りの対応に努めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	家族の意向があった場合は「できること・できないこと」の説明し、医療との連携を含め、出来る範囲の支援をしている。なお、説明の際には「看取りに関する同意書」を使用している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>当施設より自宅、他の居宅等へ移られる際には、速やかに家族、関係機関と調整し打ち合わせを行いながら必要な情報交換を行っている。</p>		
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>「個の尊厳」を理念とし、個々に合わせた声かけ、対応を意識しプライバシーの確保に努めている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>「個の尊厳」を理念とし、個々に合わせた声かけ、説明を行い自己決定できる場面を増やし、納得して暮らせるよう支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>「個の尊厳」を理念とし、利用者のペースを第一に考え、できる限り希望に添えるよう支援している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>利用開始時に確認しており、馴染みの理美容院の希望があれば引率等の支援を行っている。出張理美容も利用し馴染みの関係ができています。また、毎日の身だしなみは一部支援しながら行い、外出や行事の際にもいつもよりオシャレを楽しんでもらえるよう支援している。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>献立作りにも利用者に参加してもらい好みのものを取り入れている。他に皮むき、もやしのひげ取り、下膳や食器洗いなど出来る範囲での手伝いをお願いしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	個々で希望のものがあれば都度用意している。お酒の希望がある場合は行事でノンアルコールビールにて対応。(家族や病院のアルコール禁止の支持あったため)		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンの把握に努め、個々の状況や時間帯に合ったオムツを使用し、さりげないトイレ誘導をすることで失敗やおむツの使用を減らす努力をしている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	希望に合った入浴に心掛け、夜間入浴もできる限りで行っている。(冬期は行っていない)		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者のペースを第一に考え、体調、状況、希望に合わせて都度、対応している。夜間の巡回も行い安眠できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の生活歴や出来ること、好きなことの把握に努め、毎日の生活の中で出来る小さくとも「誰かの為に役にたてた」という喜びを感じてもらえる役割や、楽しみを支援している。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	施設利用時、本人所持の希望がある場合、家族と確認したうえで所持してもらっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬期は困難だが、フリー職員を活用し近所の散歩等、希望に添った支援に努めている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外食、ドライブは定期的に行っており、温泉、自宅等への外出は家族と相談し希望に添えるよう機会を作っている。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があれば電話や手紙の返信を支援し本人の思いを尊重している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問時間の制限はなく、訪問時には居室または居間等において気兼ねなく過ごしてもらえそうな雰囲気作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを作成しており、職員はマニュアルに基づき、勉強会を行いケアに取り組んでいる。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間の玄関施錠以外は開錠している。居室の施錠については習慣でかける方がいるが都度、声掛けしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員同士、声を掛け合いながら所在確認を行っており、夜間も定時ではないが訪室して安全を確認している。1階、2階の行き来もあり、都度、職員間の声を掛け合い確認している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	本人の希望がない限り、刃物等に関しては基本的には施設管理をしている。包丁は使用前、使用後の確認を職員2名でチェック表を使用し行っている。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ヒヤリハットや事故報告書等を用いて、再発しないようにミーティング等で話し合いをしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救命講習会には全員ではないが参加しており、応急手当普及員の資格を持つ職員を中心に定期的に講習会を行う予定。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回の避難訓練の他、地域との防災協定を締結した為、より一層の協力を得られるようになり、定期的に意見交換するよう努めている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	普段から家族の訪問時や電話にて状態の報告を行っており、その際には今後の危険性についても説明している。職員はそれぞれのリスクを把握、共有し対応している。(ベットから布団への変更、絨毯の有無等、状態に合わせて家族と相談し実行している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	個々により1日2～4回のバイタル確認や顔色、表情等を職員間で声掛け合い確認している。状況によっては病院への受診を行うこともあり。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	間違いのない方法として、準備の際2名で確認、服薬時も2名の確認を行い服薬してもらっている。用法等に関しては一覧表やお薬手帳を確認し、症状変化等があった場合は病院もしくは薬局への確認を行っている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	個々により毎朝、カスピ海ヨーグルトを提供している。他、職員と一緒にホーム内外の散歩や水分チェックを行っている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後ではないがおこなっている。声掛けや見守りとそれぞれに合った対応をし、義歯も毎晩、回収し洗浄剤につけ衛生に保っている。場合によっては歯科医の往診に診てもらっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分チェック表を使用し、個々の状態を確認している。好みの飲み物を提供したり、ストローの使用、トロミやゼリーでの提供等それぞれで工夫している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	外から入ってきた時、汚物処理後、料理前等の職員の手洗いや手指の消毒の徹底。1日に2回、ホーム内の消毒も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所は毎日、衛生を保ち消毒も行っている。食材は2～3日で買い物に行くようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	道路から玄関までスロープとなっており、車椅子の方でも出入りが容易であり、ロードヒーティングを敷設して滑らないようにしている。季節によっては玄関前にプランター等で花を飾り親しみやすい雰囲気を心がけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間や玄関に季節の花を飾っている。居間には写真や利用者とともに仕上げた作品を展示している。光はそれぞれに確認しながら、カーテンやドア、を開け閉めし調節している。音も確認しながら調節している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	窓側や事務所内等、椅子やテーブルを置き一人もしくは二人でゆっくりできる場所を提供している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際、本人の部屋で安心できるものや馴染みのもの等を持参して頂く。家具の配置なども本人の好みで変えている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	温度、湿度、異臭には敏感に対応し、温度・湿度計をみながら対応している。(廊下、居間、居室にタオルを干す、加湿器もこまめに補充他)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>転倒や足元の安全を考え、スリッパ等の履き物は使用していない。各場所にある手すりも十分に使用されており、途中置かれた椅子に休みながらも自立した歩行ができるよう工夫している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>個々に合わせた声掛けや文字での説明を行い、わかる事の把握と出来る事の実行に努め、混乱等がなく生活できるよう支援している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>少し離れたところに畑があり、野菜等を栽培し土いじりを楽しんでもらったり、プランターで花を育て、観賞し水やりを楽しんでもらっている。</p>	

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない	1
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	1
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	2
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない	1
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない	1

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	3
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	1
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	1
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	1
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	1

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)
- ・毎月、目標を立て日々の業務に取り組んでいる
 - ・個々に合わせリハビリ・レク等行っている
 - ・挨拶、笑顔を大切にしている
 - ・ユニット間の交流がある